

令和4年12月5日

美里町議会
議長 鈴木宏通 殿

総務、産業、建設常任委員会
委員長 山岸三男

総務、産業、建設常任委員会委員派遣報告書

本常任委員会は、所管事務調査を終了したので、美里町議会委員会規則第22条の規定により下記のとおり報告する。

記

1. 調査年月日 令和4年11月7日（月）午後1時30分
11月8日（火）午前10時
2. 調査視察地 長野県中野市（中野市役所 11月7日）
長野県飯綱町（飯綱町役場 11月8日）
3. 調査項目 「移住、定住の促進について」
4. 参加委員 山岸三男、佐野善弘、藤田洋一、
前原吉宏、鈴木宏通議長
5. 随員職員 今野正祐、佐藤理子

所管事務調査研修報告

目的

全国的な少子高齢化が進む中、都市部への人口集中もあり地方の過疎化が進んでいる。これらの影響を受け地方での空き家の数が増え、人が集まらず経済的に影響が出るという悪循環が生じている。このままでは、町村の存続にかかわるといふ危機感の本町においても課題となっている。

その解決策の一つとして都市部の人々を地方に移住させ、地域の持続、活性化を促そうという取組が進められている。

この移住の促進において先進的な施策により、成果を上げている先進地の取組に学び、本町の現状、課題、今後のあり方などを検討し政策提言を行うため。

調査・研修地の概要

1. 中野市

(1) 市の概要

2005年(平成17年)4月1日に中野市と豊田村による市村合併(新設合併)してできた市。人口41,490人、世帯数15,823世帯(令和4年4月1日現在)、面積112.18km²(東西約11km、南北約16km)である。

穏やかな傾斜地に集落が発達しており、気温は年間差が大きい。年間降水量は全国平均に比べ少ないが冬季は山間部で多量の降雪がある。

産業は農業が盛んであり、リンゴ、ブドウの栽培では全国有数の品質と生産量を誇っており、キノコや果樹、アスパラガス、花きの施設栽培の先進地にもなっている。

工業は食品製造業や電子、精密機械、プラスチック加工を行う企業が多い。

唱歌「故郷」の作詞家高野辰之の出身地で、田舎ながらも生活に不便がない田舎過ぎない「ちょうどいい田舎」で暮らしを始めてみませんか、をキャッチフレーズに移住定住策を進めている。

(2) 移住、定住の取組

① オーダーメイド見学ツアー

移住希望者の方に中野市での暮らしを実際に見て、感じてもらい、移住への一歩を踏み出してもらおう。随時開催しており、土、日、祝日も対応する。

② がつつり農業体験

就農検討への一助としてもらい、営農希望品種や体験時期に合わせて体験する作業や受入先の農業者を調整し、市職員が案内する。

③ U I J ターン就業・創業移住支援事業補助金

東京圏、愛知県または大阪府から市内へ移住し就業、創業した方へ補助金を交付し、三大都市圏からの移住を促進する。

④ 移住セミナー、移住相談

長野県などが開催する移住セミナーに参加し、移住相談や中野市のPRを積極的に行う。

⑤ 空き家の流通促進の取組

空き家所有者にアンケートを送り、空き家バンクへ誘導、空き家相談窓口を周知し、「所有者から相談→流通」の手順を強化することにより年々登録が増えている。

また、売れない空き家を対象に100円または100万円で売却する「100均空き家」のマッチングをしている。国からの「空き家対策総合支援事業補助金」を活用することにより、市が交付する空き家関連の補助金を充実させている。

⑥ 若者定住促進住宅

入居期間は基本的に5年間としているが、希望者には最長で2年間の延長も可能としている。

⑦ 子育て支援の充実

「安心子育て応援給付金給付事業」では出生児を対象とした3万円の出産祝金などを給付している。

また、小中学校の児童生徒の給食費の1食あたりの単価及び月額徴収額の3割軽減も行っている。

2. 飯綱町

(1) 町の概要

2005年(平成17年)10月1日に牟礼村と三水村が合併してできた町。人口10,296人、世帯数3,767世帯(令和2年6月30日現在)、面積75km²である。

長野県北部に位置し、霊仙寺湖を中心とした別荘地、スキー、ゴルフ、キャンプなどのアクティビティフィールドや花、田園風景があり、標高による寒暖差を活かした、農業が盛んな町で特にリンゴ、モモ、稲作、ソバの生産が盛んな町である。

「日本一女性が住みたくなる町」を合言葉に人口増推進計画を定め、全庁的に推進している。

(2) 移住、定住の取組

- ① 人口減少を和らげ、将来にわたって「活力ある地域社会」を実現するための目標値を設定している。

目標値 1. 令和 7 年度までの社会増を毎年度 55 人にする

そのために移住・定住の推進、稼ぐ地域・多様な仕事のある地域の実現を図っている

目標値 2. 令和 7 年度までの合計特殊出生率を毎年度 1.70 にする

そのために結婚・出産・子育てのしやすい環境の整備、健康寿命の延伸を図っている。

目標値 3. 令和 7 年度の総人口を 10,035 人にする

そのために魅力ある町づくりと都市部とのつながりの構築を図っている。

- ② 日本一女性が住みたくなる町へ

男性視点で町の施策が展開されることが多く、これまでの施策を反省し女性の意見や考えを積極的に取り入れる仕組みづくりに力を入れている。多様な価値観が共存する町、ひいては誰もが住みたくなる町づくりによる社会増を目指している。

- ③ 人口増推進計画の推進体制

令和 2 年 3 月に企画課人口増推進室を設置し、各課横断的に編成した人口減少対策プロジェクトチームを立ち上げ、本計画の策定、施策の実施にあたっている。

所見

人口減少が進むことにより、生活関連サービス（小売、飲食、娯楽、医療機関など）の縮小、税収減による行政サービス水準の低下、地域公共交通の撤退、

縮小、空き家、空き店舗などの増加、地域コミュニティの機能低下など多くの問題が顕在化する。

これらの生活水準の低下に起因してさらに人口減少が加速し、人口減少と生活環境の悪化による負のスパイラルが発生すると考えられる。

生活環境の保全を図ることを目的に中野市、飯綱町では明確な計画目標を掲げ、各種事業展開を実施し成果を上げている。

特に両市町共通施策である子育て支援策について、中野市では出産祝金、子育て応援金を、飯綱町では誕生祝金、卒園・卒業等祝金を支給しており、現金給付の見直し拡充を行っている。その意気込みと本気度に共感することができた。

これらの移住、定住支援の取組は本町にとっても共通の課題と考え、両市町の先進的事業推進に大いに学び、提言にしたい。